

SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム
文書バージョン: 4.2 – 2015-11-12

コラボレーションアプリケーションの統合



目次

1	ドキュメント履歴.....	3
2	コラボレーションアプリケーション統合の管理.....	5
3	コラボレーションの前提条件.....	6
4	BI プラットフォーム設定	7
4.1	コラボレーション設定オプション.....	7
4.2	CMC でのコラボレーションの有効化と設定.....	8
5	SAP Jam 設定	10
5.1	SAP に対する新しい SAML 信頼済み IDP の登録.....	10
5.2	SAP Jam に対する OAuth クライアントの作成.....	11
6	SAP StreamWork 設定	12
6.1	SAP StreamWork 統合図.....	12
6.2	SAP StreamWork への OAuth コンシューマキーの作成.....	13
6.3	BI ワークスペースへの SAP StreamWork の追加.....	14

1 ドキュメント履歴

以下の表は、最も重要なドキュメント変更の概要です。

表 1:

バージョン	日付	説明
SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.1	2013 年 5 月	<p>SAP Jam のサポートが追加されました。SAP Jam を統合すると、ソーシャルメディア機能およびコラボレーション機能が BI ラウンチパッドに追加されます。</p> <p>追加の SAP StreamWork アクセス権がユーザーおよびグループに追加されました。SAP StreamWork のフィードパネルには、インスタンスおよび時刻のドロップダウンリストおよびフィードのフォローまたはフォロー解除のためのボタンが含まれています。SAP StreamWork のテンプレートドキュメントをフォローすると、関連するすべてのインスタンスを自動的にフォローすることになります。SAP StreamWork のインスタンスに関するコメントは特定のインスタンスに対してのみ投稿されます。</p> <p>ドキュメントおよびインスタンスへの OpenDocument リンクは、タブ上で、またはリンクから開くことができます。OpenDocument リンクからドキュメントまたはインスタンスを表示しているときに、SAP StreamWork のフィードパネルを開いて、ドキュメントフィードをモニタリングしたり、それに返信したりすることができます。</p> <p>[出力先] ダイアログボックスに [ファイル拡張子を追加する] チェックボックスが追加されました。</p>

バージョン	日付	説明
SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.1 サポートパッケージ 1	2013 年 8 月	<p>このガイドは以下の情報を掲載するため更新されました。</p> <div> <p>i 注記</p> <p>BI ラウンチパッドの 1 つのセッションを同時に実行できます。タブ (設定によりウィンドウ) を使用して、複数のオブジェクトとアプリケーションを表示できます。</p> </div>
SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.1 サポートパッケージ 3	2014 年 3 月	SAP Jam では Microsoft Internet Explorer 11 をサポートしていないことを示す注意事項が追加されました。
SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.2	2015 年 11 月	ブランド変更によりガイドを更新しました。

2 コラボレーションアプリケーション統合の管理

このガイドは、BI プラットフォームと SAP Jam または SAP StreamWork コラボレーションアプリケーションを統合する BI プラットフォーム管理者を対象としています。

BI プラットフォームのセントラル管理コンソール (CMC) の[アプリケーション](#)領域を使用して、コラボレーションを有効化して設定できます

コラボレーションアプリケーションのエンタープライズエージェントで、次の追加の設定をする必要があります。

- サービスプロバイダとの HTTPS 接続を確立する
- 認証用の前提条件を満たす

SAP Jam または SAP StreamWork を設定すると、コラボレーションアプリケーションのフィードが BI ラウンチパッドで使用できるようになります。

SAP Jam では、Microsoft Internet Explorer 11 はサポートされていません。

3 コラボレーションの前提条件

BI プラットフォームとコラボレーションアプリケーションを統合するには、コラボレーションの前提条件を満たしている必要があります。

- BI プラットフォームに少なくとも 1 つの Central Management Server (CMS) をインストールする必要があります。
- セントラル管理コンソール (CMC) で、コラボレーションアプリケーション (SAP Jam または SAP StreamWork) を設定する必要があります。
- コラボレーションアプリケーション (SAP Jam または SAP StreamWork) のエンタープライズ組織を定義する必要があります。
- SAP Jam または SAP StreamWork のユーザは、エンタープライズ組織に所属する必要があります。
- オンプレミス LDAP/AD ディレクトリサービスを使用するユーザをプロビジョニングするために、SAP Jam または SAP StreamWork エンタープライズエージェントが必要です。

4 BI プラットフォーム設定

4.1 コラボレーション設定オプション

コラボレーションオプションは、BI プラットフォームのセントラル管理コンソール (CMC) の**プロパティ: コラボレーション**ダイアログボックスに表示されます。

プロパティ: コラボレーションダイアログボックスにアクセスするには、CMC の**アプリケーション**タブで**コラボレーション**をクリックして、**管理 > プロパティ**を選択します。

表 2:

オプション	説明
コラボレーションを有効にする	チェックボックスを選択し、[SAP Jam] または [SAP StreamWork] を選択します。
接続 URL	コラボレーションアプリケーションへの URL を入力します。
プロバイダ ID の一意の ID	BI プラットフォームデプロイメントのための一意の値を入力します。 この値は、コラボレーションアプリケーションの管理コンソールで統合を設定するために使用される証明書に関連付ける必要があります。シングルサインオンの ID をアサートするアプリケーションは、管理 OAuth アプリケーションとして設定する必要があります。
ID プロバイダの Base64 証明書	生成 をクリックすると、このボックスに証明書が作成されます。この証明書をコラボレーションアプリケーションの管理コンソールで使用して、OAuth コンシューマキーを生成します。 この証明書によって、コラボレーションアプリケーションと BI プラットフォームとの信頼関係を確立します。外部 ID プロバイダ自体は、X509 証明書で識別されます。この証明書は、すべての ID アサーションの署名に使用されます。証明書は Base64 でエンコードする必要があります。
OAuth コンシューマキー	コラボレーションアプリケーションの管理コンソールから生成された OAuth コンシューマキーを入力します。
プロキシを使用した接続	このチェックボックスを選択してプロキシ経由での接続を有効にし、 HTTP プロキシホスト ボックスおよび ポート ボックスにプロキシホストに関する情報を入力します。 コラボレーションアプリケーションのサーバから会社のネットワークへのインバウンド接続を許可するには、DMZ 内にリバースプロキシを設定する必要があります。 SSL 証明書プロバイダの信頼できる証明書をリバースプロキシに追加するには、リバースプロキシのドメイン名またはサブドメイン名を設定する必要があります。

オプション	説明
HTTP プロキシホスト	<p>リバースプロキシ設定で、コラボレーションアプリケーションにアクセスできる外部アドレスを入力します。たとえば、https://<ReverseProxy>/ を使用します。ここでの <ReverseProxy> は、リバースプロキシのドメイン名またはサブドメイン名です。</p> <p>コラボレーションアプリケーションはこのアドレスを使用して、BI プラットフォームに情報を送信します。リバースプロキシはこのアドレスを使用して、コラボレーションアプリケーションから取得した情報を、コラボレーションアプリケーションのエンタープライズエージェントを含むマシンにリダイレクトします。</p>
ポート	<p>コラボレーションアプリケーションのエンタープライズエージェントは、ポート 8443 から受信するように設定します。</p>

4.2 CMC でのコラボレーションの有効化と設定

このタスクでは、コラボレーションアプリケーション (SAP Jam または SAP StreamWork) の管理コンソールへの有効な接続が必要です。コンソールのセキュリティ詳細情報を渡したり取得したりする必要があります。

セキュリティ上の理由から、以下のデフォルトアカウントは、SAP Jam または SAP StreamWork へのコンテンツの送信やスケジュールを行うことはできません。

- Guest
- SMAdmin
- Administrator
- WaaWSServletPrincipal

1. BI プラットフォームのセントラル管理コンソール (CMC) で、[アプリケーション] エリアに移動し、[コラボレーション] をダブルクリックします。
2. **プロパティ: コラボレーション** ダイアログボックスで、**コラボレーションを有効にする** チェックボックスを選択し、*SAP Jam* または *SAP StreamWork* を選択します。
3. **接続 URL** ボックスに、コラボレーションアプリケーションの URL を入力します。
4. **プロバイダ ID の一意の ID** ボックスに、BI プラットフォームデプロイメントに対して一意である ID プロバイダ値を入力します。
ID プロバイダ値を書き留めます。後でコラボレーションアプリケーションの設定に使用します。
5. [生成] (または、以前に証明書を作成したことがある場合は [再生成]) をクリックします。
ID プロバイダの Base64 証明書 ボックスに証明書が表示されます。コラボレーションアプリケーションの設定に証明書を使用します。
6. **OAuth コンシューマキー** ボックスに、有効な OAuth コンシューマキーを入力します。
7. プロキシを経由して SAP Jam または SAP StreamWork を実行しているサーバに接続している場合、以下のアクションを実行します。
 - a. [プロキシを使用した接続] チェックボックスを選択します。
 - b. **HTTP プロキシホスト** ボックスに、サーバのプロキシホスト名を入力します。
 - c. **ポート** ボックスに、サーバのポート番号を入力します。

8. [保存して閉じる](#)をクリックします。

5 SAP Jam 設定

5.1 SAP に対する新しい SAML 信頼済み IDP の登録

BI ランチパッド内のユーザの Enterprise 電子メールアドレスに対応する一意の電子メールアドレスとともに、各ユーザを登録する必要があります。この電子メールアドレスによって、BI プラットフォームと SAP の間がマップされます。

新しい SAML 信頼済み IDP を登録するには、次の条件を満たす必要があります。

- SAP に会社を追加して設定する必要があります。
- SAP 内の会社に関連付けられた有効な SAP ユーザアカウントが必要です。
- SAP 内の会社の会社管理権限と、BI プラットフォームおよび BI ランチパッドの完全な管理者権限が必要です。
- BI ランチパッドを OAuth クライアントとして登録する必要があります。OAuth クライアントは、SAP 内でランチパッドの代表として動作します。

SAP Jam では、Microsoft Internet Explorer 11 はサポートされていません。

1. BI プラットフォームのセントラル管理コンソール (CMC) の右上隅で、[管理者](#)を選択し、[管理](#)を選択します。
SAP ライセンスを含む、会社に関する情報が表示されます。この情報を記録またはメモしてください。
2. [管理メニュー](#)で [SAML 信頼済み ID](#) を選択し、[アイデンティティプロバイダの登録](#)をクリックします。
BI ランチパッドで作成した IDP を登録する必要があります。
3. [IDP ID](#) ボックスに、SAP を BI プラットフォームで設定したときに作成された、一意の ID プロバイダの値を入力します。
値がない場合は、外部アプリケーション管理者に問い合わせてください。
たとえば、`<CompanyName>_<SystemId>_<client>` を入力します。
4. [Single Sign-On URL](#) ボックスに、SAP に直接アクセスする URL を入力します。
SAP では、一意の ID プロバイダとのシングルサインオンに、この URL が使用されます。
5. [Single Log-Out URL](#) ボックスに、SAP からログオフした後に表示する URL を入力します。
SAP では、一意の ID プロバイダからのシングルログアウトに、この URL が使用されます。
6. [\[Default Name ID Format\]](#) ボックスに、認証要求で使用する名前 ID 形式を入力します。
7. [\[Default Name ID Policy SP Name Qualifier\]](#) ボックスに、認証要求で使用する SP 名前修飾子を入力します。
8. [Allowed Assertion Scope](#) リストで [Users in my company](#) を選択します。
このオプションでは、SAP が IDP からのアサーションを受け入れるユーザのセットを指定します。
9. [X509 証明書 \(Base64\)](#) ボックスに、SAP を BI プラットフォームで設定したときに生成された、Base64 証明書の値を入力します。
値がない場合は、外部アプリケーション管理者に問い合わせてください。
10. [\[登録\]](#) をクリックします。

5.2 SAP Jam に対する OAuth クライアントの作成

OAuth コンシューマキーを作成するには、次の条件を満たす必要があります。

- SAP Jam に会社を追加して設定する必要があります。
- SAP Jam 内の会社に関連付けられた有効な SAP Jam ユーザアカウントが必要です。
- SAP Jam 内の会社の会社管理権限と、BI プラットフォームおよび BI ラウンチパッドの完全な管理者権限が必要です。
- BI ラウンチパッドを SAP Jam に OAuth クライアントとして登録する必要があります。OAuth クライアントは、SAP Jam 内でラウンチパッドの代表として動作します。
- 各ユーザは、BI ラウンチパッド内のユーザの Enterprise 電子メールアドレスに対応する一意の電子メールアドレスとともに、SAP Jam に登録する必要があります。この電子メールアドレスによって、BI プラットフォームと SAP Jam 間がマップされます。

SAP Jam では、Microsoft Internet Explorer 11 はサポートされていません。

1. SAP Jam で、右上隅の [\[Administrator\]](#) メニューから [\[Admin\]](#) を選択します。
SAP Jam ライセンスを含む、会社に関する情報が表示されます。
2. [管理メニュー](#) から [OAuth クライアント](#) を選択し、[OAuth クライアントの追加](#) をクリックします。
3. [\[新しい OAuth クライアントの登録\]](#) ダイアログボックスの [\[名前\]](#) ボックスに、SAP Jam を BI プラットフォームで設定したときに作成された、一意の ID プロバイダを入力します。
値がない場合は、外部アプリケーション管理者に問い合わせてください。
ユーザの代わりに処理を行ったときに、SAP Jam に、入力する URL に対するハイパーリンクとしてアプリケーション名が表示されます。
たとえば、`<CompanyName>_<SystemId>_<Client>_<Application>` を入力します。
4. [Integration URL](#) ボックスに、BI ラウンチパッドの URL を入力します。
ユーザの代わりに処理を行ったときに、SAP Jam に、この URL に対するハイパーリンクとしてアプリケーション名が表示されます。
5. [\[X509 証明書 \(Base64\)\]](#) ボックスに、SAP Jam を BI プラットフォームで設定したときに生成された、Base64 証明書の値を入力します。
値がない場合は、外部アプリケーション管理者に問い合わせてください。
このボックスを空欄のままにすると、SAP Jam によってコンシューマシークレットが設定されます。
6. [保存](#) をクリックします。

OAuth コンシューマキーが生成されます。BI プラットフォーム管理者が使用できるように、OAuth コンシューマキー値を書きとめます。

6 SAP StreamWork 設定

6.1 SAP StreamWork 統合図

この図で、SAP StreamWork との統合に必要な BI プラットフォーム、SAP StreamWork、および SAP StreamWork エンタープライズエージェントコンポーネントを示します。

ワークフローで、システムの統合に関係する手順と、統合後にユーザが実行できるようになるアクションの概要について説明します。

- SAP StreamWork エンタープライズエージェントでは、LDAP から SAP StreamWork に Enterprise ユーザをプロビジョニングできます。
- BI プラットフォームのセントラル管理コンソール (CMC) では、管理者がユーザを作成して、作成したユーザを Enterprise ユーザにマップできます。
- BI ラウンチパッドでは、アカウントを作成したり SAP StreamWork にログオンしたりしなくても、アクティビティを作成して、作成したアクティビティをブラウザで表示できます。
- BI ラウンチパッドでは、SAP StreamWork フィードを表示して応答できます。

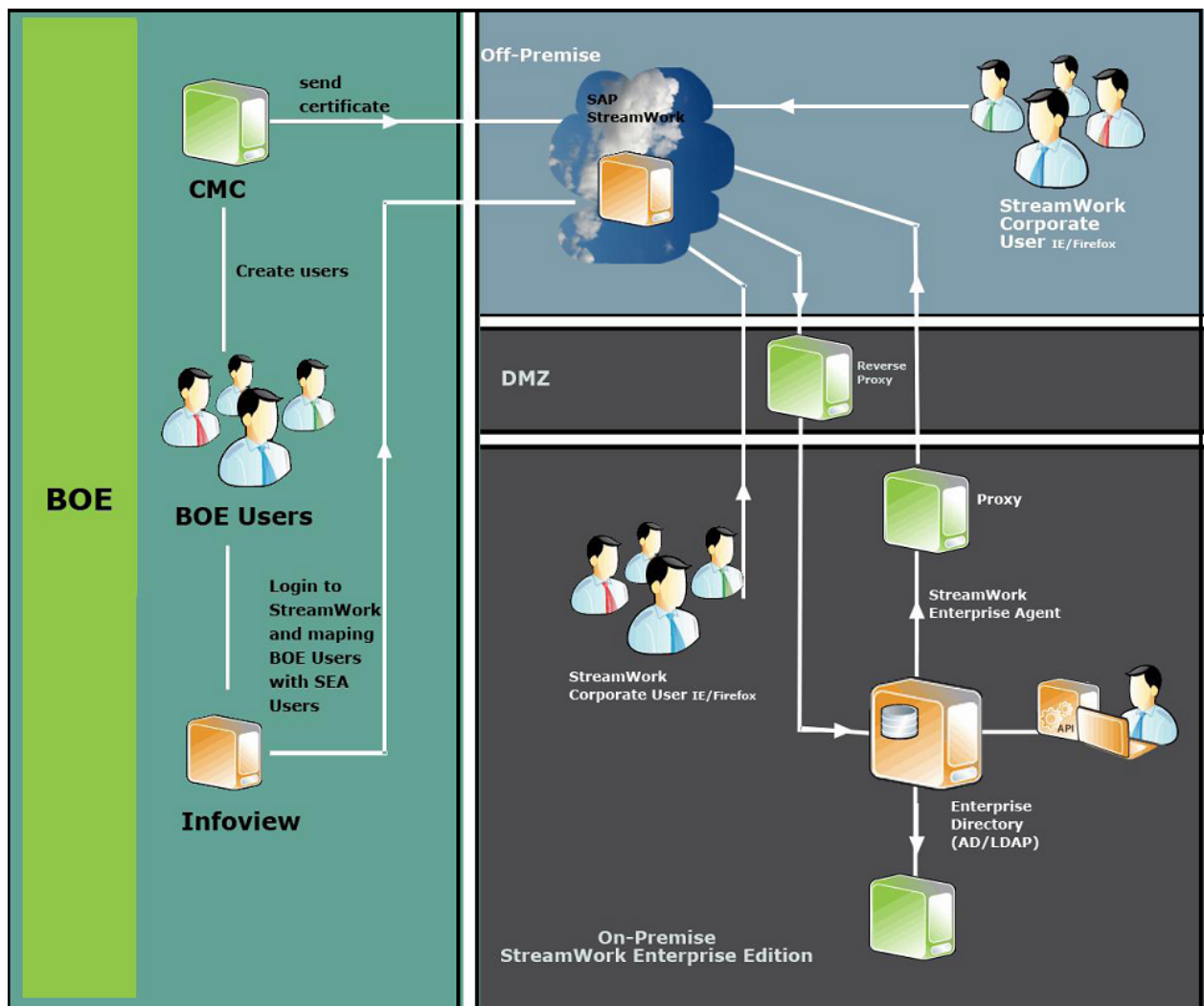


図 1:システムの概略

6.2 SAP StreamWork への OAuth コンシューマキーの作成

OAuth コンシューマキーを作成するには、SAP StreamWork エンタープライズ組織の管理者権限が必要です。

1. SAP StreamWork Administration Console の[管理] タブで [SAML 信頼済み IDP] を選択し、エンタープライズ組織管理者専用のアカウントを使用して SAP StreamWork にログインします。
2. [アイデンティティプロバイダの登録] をクリックします。
3. [ここをクリックして新しい管理 OAuth アプリケーションを作成] を選択して、[使用条件の合意] に同意します。
4. [新しいアプリケーション OAuth アプリケーションの登録] ウィンドウで、次の操作を実行します。
 - a. [アプリケーション名] ボックスに、統合で使用するアプリケーションインスタンスの名前を入力します。
この情報によって、ユーザの SAP StreamWork フィードを投稿するなど、ユーザの代表として処理をする必要があるアプリケーションが識別されます。ユーザはこのアプリケーション名を認識できる必要があります。
 - b. 統合 URL ボックスに、BI ラウンチパッドの URL を入力します。
 - c. [Base64 X509 証明書] ボックスに、SAP StreamWork を BI プラットフォームのセントラル管理コンソール (CMC) で設定したときに生成された、Base64 証明書の値を入力します。

値がない場合は、外部アプリケーション管理者に問い合わせてください。

5. [\[登録\]](#) をクリックします。
OAuth コンシューマキーが生成されます。BI プラットフォーム管理者が使用できるように、OAuth コンシューマキー値を書きとめます。
6. [\[戻る\]](#) をクリックして、SAML 信頼済み ID プロバイダを表示します。
7. [\[新しい SAML 信頼済みアイデンティティプロバイダの登録\]](#) ウィンドウで、次の操作を実行します。
 - a. [\[表示名\]](#) ボックスに、BI プラットフォームデプロイメントの名前を入力します。
この名前は、SAP StreamWork の中でユーザに表示されます。
 - b. [\[IDP ID\]](#) ボックスに、SAP StreamWork を BI プラットフォームで設定したときに作成された、一意の ID プロバイダの値を入力します。
値がない場合は、外部アプリケーション管理者に問い合わせてください。
 - c. [\[Base64 X509 証明書\]](#) ボックスに、SAP StreamWork を BI プラットフォームで設定したときに生成された、Base64 証明書の値を入力します。
値がない場合は、外部アプリケーション管理者に問い合わせてください。
8. [登録](#) をクリックします。

6.3 BI ワークスペースへの SAP StreamWork の追加

SAP StreamWork は非表示になっており、BI ワークスペースに追加可能な BI ラUNCHパッドモジュールのリストに手動で表示する必要があります。

1. C:\BusinessObjects\tomcat\work\Catalina\localhost\BOE\eclipse\plugins\webpath.PerformanceManagement\web\WEB-INF\lib\asdk-ivdm_ext.jar\conf-syst\conf-syst\home-analyticlist.xml を探します。

ファイルの内容は、以下のテキストで始まっている必要があります。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<CHOICE>
<!--<SW_ACTIVITIES NAME="$MSG_SW_ACTIVITIES$" DESCRIPTION="$MSG_SW_ACTIVITIESDESC$" />-->
<!--SW_FEED NAME="$MSG_SW_FEED$" DESCRIPTION="$MSG_SW_ACTIVITIESDESC$" /-->
<HOMEINBOX NAME="$MSG_HOMEINBOX$" DESCRIPTION="$MSG_HOMEINBOXDESC$" />
<HOMEAPPLICATIONS NAME="$MSG_HOMEAPPLICATIONS$"
DESCRIPTION="$MSGHOMEAPPLICATIONSDESC$" />
<HOMERECENTLYRUNDOCS NAME="$MSG_HOMERECENTLYRUNDOCS$"
DESCRIPTION="$MSG_HOMERECENTLYRUNDOCSDESC$" />
<HOMERECENTDOCS NAME="$MSG_HOMERECENTDOCS$" DESCRIPTION="$MSG_HOMERECENTDOCSDESC$" />
<HOMEALERTS NAME="$MSG_ALERTNOTIFICATIONS$"
DESCRIPTION="$MSG_ALERTNOTIFICATIONSDESC$" />
</CHOICE>
```

2. SW_ACTIVITIES NAME= および SW_FEED NAME= 行から、!-- を削除します。
3. Tomcat サーバを再起動します。

[SAP StreamWork フィード](#)が、BI ラUNCHパッドで、BI ワークスペースのモジュールライブラリにある [BI ラUNCHパッドモジュール](#)リストに表示されます。

重要免責事項および法的情報

コードサンプル

この文書に含まれるソフトウェアコード及び / 又はコードライン / 文字列 (「コード」) はすべてサンプルとしてのみ提供されるものであり、本稼動システム環境で使用することが目的ではありません。「コード」は、特定のコードの構文及び表現規則を分かりやすく説明及び視覚化することのみを目的としています。SAP は、この文書に記載される「コード」の正確性及び完全性の保証を行いません。更に、SAP は、「コード」の使用により発生したエラー又は損害が SAP の故意又は重大な過失が原因で発生させたものでない限り、そのエラー又は損害に対して一切責任を負いません。

アクセシビリティ

この SAP 文書に含まれる情報は、公開日現在のアクセシビリティ基準に関する SAP の最新の見解を表明するものであり、ソフトウェア製品のアクセシビリティ機能の確実な提供方法に関する拘束力のあるガイドラインとして意図されるものではありません。SAP は、この文書に関する一切の責任を明確に放棄するものです。ただし、この免責事項は、SAP の意図的な違法行為または重大な過失による場合は、適用されません。さらに、この文書により SAP の直接的または間接的な契約上の義務が発生することは一切ありません。

ジェンダーニュートラルな表現

SAP 文書では、可能な限りジェンダーニュートラルな表現を使用しています。文脈により、文書の読者は「あなた」と直接的な呼ばれ方をされたり、ジェンダーニュートラルな名詞 (例: 「販売員」又は「勤務日数」) で表現されます。ただし、男女両方を指すとき、三人称単数形の使用が避けられない又はジェンダーニュートラルな名詞が存在しない場合、SAP はその名詞又は代名詞の男性形を使用する権利を有します。これは、文書を分かりやすくするためです。

インターネットハイパーリンク

SAP 文書にはインターネットへのハイパーリンクが含まれる場合があります。これらのハイパーリンクは、関連情報を見いだすヒントを提供することが目的です。SAP は、この関連情報の可用性や正確性又はこの情報が特定の目的に役立つことの保証は行いません。SAP は、関連情報の使用により発生した損害が、SAP の重大な過失又は意図的な違法行為が原因で発生したものでない限り、その損害に対して一切責任を負いません。すべてのリンクは、透明性を目的に分類されています (<http://help.sap.com/disclaimer> を参照)。

www.sap.com/contactsap

© 2015 SAP SE or an SAP affiliate company. All rights reserved.

本書のいかなる部分も、SAP SE 又は SAP の関連会社の明示的な許可なくして、いかなる形式でも、いかなる目的にも複製又は伝送することはできません。本書に記載された情報は、予告なしに変更されることがあります。SAP SE 及びその頒布業者によって販売される一部のソフトウェア製品には、他のソフトウェアベンダーの専有ソフトウェアコンポーネントが含まれています。製品仕様は、国ごとに変わる場合があります。

これらの文書は、いかなる種類の表明又は保証もなしで、情報提供のみを目的として、SAP SE 又はその関連会社によって提供され、SAP 又はその関連会社は、これら文書に関する誤記脱落等の過失に対する責任を負うものではありません。SAP 又はその関連会社の製品及びサービスに対する唯一の保証は、当該製品及びサービスに伴う明示的保証がある場合に、これに規定されたものに限られます。本書のいかなる記述も、追加の保証となるものではありません。

本書に記載される SAP 及びその他の SAP の製品やサービス、並びにそれらの個々のロゴは、ドイツ及びその他の国における SAP SE (又は SAP の関連会社) の商標若しくは登録商標です。本書に記載されたその他すべての製品およびサービス名は、それぞれの企業の商標です。

商標に関する情報および表示の詳細については、<http://www.sap.com/corporate-en/legal/copyright/index.epx> をご覧ください。